



242

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2024年12月22日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

「偉大な師匠を超えたい」落語家・桂三四郎さんの挑戦

22日(日)＝1、3面

迫る



落語家の桂三四郎さん(42)＝写真＝は昨年度の「彩の国落語大賞」という若手の登竜門となる大

きな賞を受賞しました。その「晴れの舞台」で特別ゲストとして高座に上がったのは、師匠の桂文枝さん(81)でした。創作落語の大御所、さらにテレビなどでも知名度抜群の文枝さん。この晴れ舞台、弟子を褒めるのかと思っていたら、そうではありませんでした。

高座でひたすら自身の「すごさ」を見せつけ、「(三四郎さんは)ええかげんでね……」とイジリ出します。弟子の高座を舞台袖で見つめましたが、ニコリともせ

ず、その場を去っていきました。

厳しい師匠。でも三四郎さんは「改めて自分の目指すところが定まった」とどこかうれしそうでした。入門は2004年。三四郎さんは「弟子の中で一番ダメだった」と振り返ります。

三四郎さんはどん底からどうやってはい上がってきたのでしょうか。そんな師匠と弟子の物語を描きます。

さいたま支局・瀬尾忠義記者の執筆です。



バレーボール新リーグがスタート

22日(日)＝総合面

バレーボールの新しい国内リーグ「SVリーグ」が10月にスタートしました＝写真＝。最近では国際大会で男女とも表彰台に上がるなど、日本のバレー界は実力をつけ、人気が高まっています。SVリーグは数年後の「完全プロ化」を掲げ、世界最高峰のリーグを目指しています。これまでから変化した点、地域と連携した取り組みや自立した経営に向けたポイントなどについて解説します。

※先々週は紙面事情により休載しました。再掲となります。



論点

演歌は「日本の心」？

年の瀬が近づきました。大みそかといえ、NHK紅白歌合戦。紅白といえ、演歌です。今年も紅白には演歌歌手が何人も出場します。演歌は「日本の心・伝統」を感じさせる音楽ですが、実はせいぜい半世紀前にできた

「新しい音楽」と知っていますか。なぜ、演歌は東北を歌うのでしょうか。そして、演歌と、沖縄や韓国の楽曲との関係性とは。知られざる演歌の深層について、音楽研究者らが論じます。

25日(水)＝オピニオン面

特集 ワイド

被災地・福島に移住した元副復興相

23日(月)＝夕刊2面



東京電力福島第1原発事故により、11年半近く「住民ゼロ」の状態が続いた福島県双葉町。2022年に一部の避難指示が解除されましたが、実際に住んでいる人はいまだ200人に達していません。うち一人が公明党の元参院議員にして元副復興相の浜田昌良さん＝写真＝です。縁もゆかりもない原発立地自治体に乗り込んだのはなぜか。いま、思うことは？ 自宅を訪ねました。

MAINICHI
毎日新聞

第104回全国高校ラグビーフットボール大会が27日、東大阪市花園ラグビー場で開幕します。毎日新聞のニュースサイトでは、全51代表校決定の記念PDF号外をアップしています。さらに、熱戦の様子は、大会公式サイト「HANA ZON L I V E」で全試合無料配信！聖地、花園でぶつかり合う選手たちの熱い姿をお見逃しなく！QRコードよりご覧いただけます。(都築葵)

